

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03569

研究課題名(和文)グプタ朝以降のインド仏教の僧院に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Studies of Indian Buddhist Monasteries from the Gupta Period Onward

研究代表者

久間 泰賢 (KYUMA, Taiken)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号：60324498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、インド仏教における僧院の実態と諸機能について、異なる研究分野と方法論に基づいた複数の研究班の連携を通じて、総合的に考察することである。従来のインド仏教史研究では、密教思想の台頭(グプタ朝以降)に伴う仏教の衰退が一般に論じられてきた。本研究では、特にグプタ朝以降におけるインドの諸地域の僧院に焦点を当て、インド仏教の衰退を再考した。主な結論は次の通りである。インド仏教の衰退を論じる際には、複数の側面やレベル(互いに密接に関わるものではあるが)を区別すべきである。それは「教理的側面」と「世俗的・社会的側面」、「僧院組織のレベル」と「個々の仏教徒(僧俗の両者)のレベル」である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、他分野の研究者の助力も得た国際的な研究体制によって、インド仏教の衰退について僧院の観点から再考することで、インド仏教史の全体的枠組みの見直しを図った。インド仏教史は、学界にとどまらず、広く社会にも影響力を有するトピックである。その意味において、本研究の成果には学術的意義・社会的意義が存する。また、本研究の具体的内容については、オンライン(科研ニュースレターの日本語版・英語版や主に高校生に向けた研究紹介サイト)で広く発信している。したがって、本研究には大きな波及効果も期待することができる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to conduct comprehensive studies on the actual conditions and functions of Indian Buddhist monasteries through coordination among multiple research teams based in differing methodologies and research fields. In conventional historical research on Indian Buddhism, a common stance is that “from the Gupta period onward, with the rise of tantric Buddhism, Indian Buddhism experienced a decline.” To reconsider the decline of Indian Buddhism, we focused on the monasteries that existed in various regions of India from the Gupta period onward. The main conclusion is as follows: distinguishing between different aspects or levels is crucial when discussing the decline of Indian Buddhism (although they are closely related). They are the “doctrinal aspect,” the “secular and social aspect”; the “level of monastic institutions,” and the “level of individual Buddhists (including both monks and laymen).”

研究分野：インド哲学・仏教学

キーワード：インド仏教 僧院 グプタ朝 密教思想 イスラーム

1. 研究開始当初の背景

従来のインド仏教史研究においては、「グプタ朝以降の密教（仏教タントリズム）思想の台頭とともにインド仏教は衰退に向かい、最終的には13世紀初頭にイスラーム勢力による僧院破壊が行われたことで滅亡に至った」という論調が少なからず見られる。その主な論拠としては、密教思想の台頭に伴う仏教のヒンドゥー教化・モラルの退廃、カースト制度を基盤とするヒンドゥー教に比べて世俗社会との結びつきが弱いこと、教勢が衰えた、などの主張が用いられてきた。しかし近年の研究動向は、これらの主張に対して疑義を生じさせるものである。たとえば、インド密教がヒンドゥー教（とりわけシヴァ教）の影響を強く受けていることは確かであるが、一方ではインド密教の教理そのものが高度な発達と体系化を遂げたことも明らかになっている。また、密教思想は、伝統的な浄・不浄思想を超越しようとするタントリズムの影響下において、性的儀礼など従来タブーとされてきた事柄を採り入れている。しかし、これをインド仏教のモラルの退廃と短絡的に結び付けることはできない。性的儀礼などはヒンドゥー教タントリズムも採用しているからであり、かつ教理的見地からは性的儀礼への耽溺は許されないからである。さらには、仏教徒のモラルの退廃は、初期仏教以降問題とされてきた事柄であることも近年指摘されている。加えて、ヒンドゥー教と比べて世俗社会との結びつきが弱いという主張も、グプタ朝やパーラ朝などの世俗権力が複数の仏教僧院を建立したという史実に目を向けるならば、疑わしいものとなる。これらの複数の有力な僧院には、ある種のネットワークが存在していたとする研究もある。以上の事柄を斟酌するならば、グプタ朝以降のインド仏教は、我々が想像している以上に僧院を中心として活発に機能していたという可能性を検討する必要性が生じてくる。一方、イスラームによる攻撃に関しても、13世紀頃まで複数の宗教勢力（主に仏教、ヒンドゥー教、イスラーム）の間に政治性を伴う緊張関係があったことが近年論じられている。この場合、インド仏教がイスラームによって壊滅的な打撃を受けたのは、時代が下っても複数の僧院が活発に機能していたにもかかわらず、何らかの理由で当時の複雑な宗教的・政治的均衡が急激に大きく崩れてしまったことによるという可能性も考慮しなければならなくなる。以上の学術的背景を踏まえて、グプタ朝以降の仏教僧院の諸機能と実態を解明することで冒頭に挙げた「インド仏教衰退史観」を再検討したいというのが、本研究の学術的な問題意識である。

本研究の着想に至った経緯についても、併せて説明しておきたい。これまで研究代表者は、インドのパーラ朝初期（800年頃）に建立された「ヴィクラマシーラ（Vikramaśīla）寺院（現ガンジス河流域の Antichak 村に遺構が発見された）」（※なお本研究では「僧院」という術語を統一的使用する）の学僧の著作群に焦点を絞り、後期インド仏教における顕教と密教の関係性について、国内外の複数の研究者の協力を得て研究を進めてきた。その過程において、ヒンドゥー教の影響は認められるにせよ、後期インド仏教が、おそらくは僧院における学修カリキュラムを前提とした、高度な教理体系を発達させていることが明らかになった。そこから生じてきたのが、いわゆる「インド仏教衰退史観」に対する疑問である。少なくとも教理史的観点からは、「グプタ朝以降の密教思想の台頭とともにインド仏教が衰退に向かった」という主張を容認することはできない。それだけではなく、そもそもグプタ朝以降も大僧院が建立され、それらが13世紀初頭まで存続していたという史実を考慮するならば、「インド仏教衰退史観」そのものを再検討する必要があるという点に思い至った。そこで本研究においては、時間軸を「パーラ朝以降」から「(密教思想の台頭が問題となる)グプタ朝以降」にまで遡るとともに、研究対象についても Vikramaśīla から「インド仏教史上の実質的拠点としての僧院一般 (Nālandā/Somapura/Jagaddala など、研究が進んでいる他の有力な僧院も包含する)」に拡大し、他分野の研究者の協力も得て、総合的に考察を進めることとした。本研究によって複数の僧院が活発に機能していたことを立証できれば、「インド仏教衰退史観」を相対化し、インド仏教史の枠組みを更新できるのではないかと考えた次第である。

2. 研究の目的

以上の学術的背景を前提として、本研究が目的とするのは、インド仏教における僧院の諸機能と実態について、異なる研究分野と方法論に基づいた複数の研究班の連携を通じて総合的に考察することである。本研究の方法論・内容に関する学術的独自性は以下の通りである（科研費改革以降の基準「挑戦性・総合性・融合性・国際性」にも適合するものである）。

(1) 本研究の方法論に関して

本研究は、異なる専門領域（仏教学・歴史学など）に属し、異なる方法論（文献研究・碑文研究など）を有する研究者が国際的な学術的交流を行うことでそれぞれの研究業績を融合させ、多角的・総合的な見地から考察を進める点に、その方法論上の特色がある。こうした学際的方法論

は、従来のインド仏教史研究において試みられることがなかったものである。

(2) 本研究の内容に関して

(a) インド仏教史の枠組みの見直しを図る研究である点

これまでのインド仏教史研究においては、「密教思想の台頭」と「インド仏教の衰退」がワンセットで語られることが多かった。しかし、教理史的観点からは「密教思想が他の仏教思想およびヒンドゥー教的要素も採り入れた豊穡さを獲得したこと」は明白である。さらに、13世紀初頭まで大僧院が実際に機能していたことを考慮するならば、僧院史的観点からも、「インド仏教が衰退した」というステレオタイプな（しかもこれまで学界や社会に広く影響を及ぼしてきた）主張に挑戦し、批判的に再検討すべき時期に来ている。本研究は、他分野の研究者の助力も得た国際的な研究体制によって、学界や社会に影響力のある「インド仏教史の全体的枠組み」の見直しを図るものであり、その成果には大きな波及効果が期待できる。

(b) 僧院を「インド仏教史上の拠点」として捉える点

僧院に関する資料は、写本・碑文・美術・建築など多岐にわたっており、豊富な先行研究も存在する。しかし、それらを僧院という「インド仏教史上に実質的に存在している拠点」を通じて互いに照合し、包括的・総合的に検討する試みは、これまで皆無であった。本研究によってグプタ朝以降の僧院の諸機能が解明されたならば、インド仏教の歴史的事態の解明にも貢献するものとなる。さらには、僧院の伝統はグプタ朝以前のインド仏教でも問題になると同時に、チベット仏教など他地域の仏教史においても重要な役割を果たしてきた。その意味において、本研究の方法論は今後大きく展開するポテンシャルを有するものである。

(3) 本研究で明らかにしようとする事柄

以上の学術的背景を前提として、本研究が目的とするのは、インド仏教における僧院の実態と諸機能について、異なる研究分野と方法論に基づいた複数の研究班の連携を通じて総合的に考察することである。特に、密教思想の台頭に伴う仏教の衰退が論じられてきたグプタ朝以降のインドの主要地域（ガンダーラ・デカン・ビハール・ベンガル・南インドなど）の僧院を対象として調査を進める。具体的目標として次の3点を設定する。

- (I) 各班は「僧院」というテーマのもとで最先端の研究成果を総括すると同時に、新たな知見の獲得に努める。その際、他班の研究者と共に学際的視点から考察を進める。
- (II) (I) と連動するかたちで「インド仏教僧院データベース」をドイツの Hamburg 大学との連携によって作成・公開し、国際的波及性を高めてフィードバックを促す。
- (III) (I) と (II) の成果に基づいて、これまで影響を及ぼしてきた「グプタ朝以降のインド仏教衰退史観」の妥当性について、総合的な観点から再評価を行う。

3. 研究の方法

上述の具体的目標 (I)~(III) を遂行するために、以下のような研究体制を組織する。各研究班は、科研メーリングリスト“Vihāra”、および科研用の Google Drive や Dropbox などのファイル交換ツールを通じて、国際的規模での研究連携を常時維持する。



①総括班（研究代表者と各班の責任者で構成）：各班の成果を取りまとめて総合的に検討

②写本文献資料研究班：インド仏教僧院の教理体系の検討・僧院関連情報の収集

③碑文資料研究班：インド仏教僧院に関わる碑文資料の検討

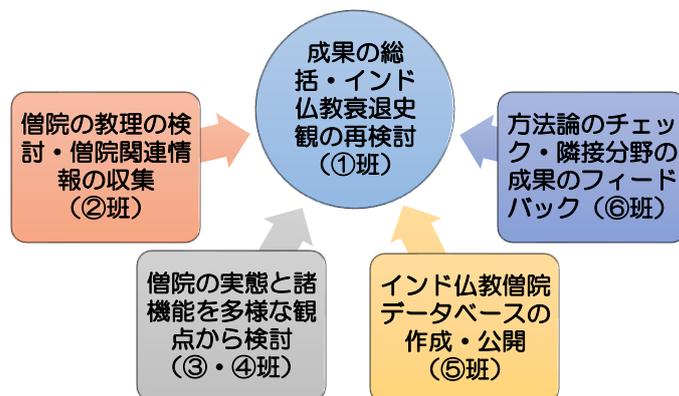
④美術・建築・考古学研究班：インド仏教僧院に関わる諸資料の検討

⑤データベース作成班：他班の成果に基づくインド仏教僧院データベースの作成・公開

⑥外部評価班：東洋史、イスラーム史、グプタ朝以前の仏教僧院、チベット仏教、ヒンドゥー教の観点から学際的フィードバックを与える

このほかにも、メーリングリスト（国内外から 30 名程度が参加）に基づく研究体制がすでにプロジェクトを立ち上げる時点で存在しており、随時協力を要請できる状況を整えている。

各研究班の役割分担は以下の図の通りである。



※以上の内容（1. から 3. まで）は本科研の申請書に基づくものである。

4. 研究成果

各班の責任者を中心とした研究活動や、具体的な研究成果の詳細については、現在オンライン公開している科研ニュースレター（日本語版・英語版）に記載しているので、そちらを参照されたい（<https://mie-u.repo.nii.ac.jp>）。本報告書においては、以下に要点のみを記しておく。

【総括班】

科研全体としての結論は以下の通りである。インド仏教の衰退を論じる際には、複数の側面やレベル（互いに密接に関連するものではあるが）を区別する必要がある。それは、「教理的側面」と「世俗的・社会的側面」、そして「僧院組織のレベル」と「個々の仏教徒（僧俗の両者を含む）のレベル」である。

そのうち「教理的側面」については、インド亜大陸の宗教空間において仏教はその成立当初から他宗教の影響を受けてきたことも踏まえつつ、syncretism を一宗教の衰退の基準として用いることをいったん留保すべきであると提案した。たとえばインド密教はシヴァ教タントリズムの影響を受けている一方で、それ自体としては高度な教理的展開を示している。

また、「世俗的・社会的側面」については、衰退の度合いを測る基準が複数存在するため（僧院の遺構が分布する領域の広狭、僧院に対する世俗権力の庇護の大きさ、僧院を拠点とした教理・美術の発展の度合い、イスラームを含む他宗教との関係、教勢や信徒数—ただし正確な計測は難しい—など）、衰退の概念そのものを複数の側面に分割して論じることの必要性を指摘した。

さらに「僧院組織のレベル」と「個々の仏教徒（僧俗の両者を含む）のレベル」については、仏教僧院をインド仏教史の要として過度に重視することの危険性や、インド仏教の段階的な衰退についてはアジア仏教圏にその痕跡を残したインドの旅行者の生涯が資料となることが近年指摘されている。しかしその一方では、諸僧院の機能や活動（および僧院間のネットワーク）の喪失がインド仏教史に大きな変化をもたらしたことも否めない。今後の研究においては、「僧院組織のレベル」と「個々の仏教徒（僧俗の両者を含む）のレベル」を自覚的に区別することが求められる。

各研究班の研究成果の概要は次の通りである。

【写本文献資料研究班】

・複数回の文献講読会の開催を通じた、僧院での学修内容に関する文献の内容分析と、複数の僧院間で基本的な学修資料を共有していた可能性の考察

【碑文資料研究班】

・中世の南アジア・東南アジアにおける僧院とパトロン（および社会的文脈）との関係を扱った国際ワークショップの開催（2019年度）、DHARMA Project（ERC no. 809994）との知見共有、国際ワークショップの論文集の刊行（<https://hal.science/hal-04135594#>）

【美術・建築・考古学研究班】

・複数の現地調査に基づいた、インド仏教の衰退状況に関する見取り図（歴史的時間軸と地域差の両者を考慮したもの）の作成、2021 年度に開催した国際ワークショップの論文集の刊行（RINDAS Series of Working Papers 34: <https://rindas.ryukoku.ac.jp/publication>）

【データベース作成班】

・複数の研究会開催を通じた、主要な僧院を中心とするデータベースの作成（Indo-Tibetan Lexical Resource の website <https://www.itlr.net/test.php?md=view> で順次公開予定）

【外部評価班】

・複数の講演会・ワークショップ開催を通じた、東南・中央・西アジアにおける仏教僧院と他宗教（イスラーム、ヒンドゥー教など）との関係の考察、インド仏教僧院に対するイスラームの侵略をめぐる（宗教的關係のみならず政治的・軍事的文脈なども踏まえた）多角的考察、仏教関連の記述を含むイスラーム側のペルシア語文献の検討（仏教学・東洋史など、複数の専門分野の研究者が協同して解読）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計64件（うち査読付論文 40件 / うち国際共著 21件 / うちオープンアクセス 59件）

1. 著者名 Kazuo KANO	4. 巻 -
2. 論文標題 A Later Interpolation or a Trace of the Earliest Reading? - Ratnagotravibhaga 5.19 and an "Extra Verse" -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Gateways to Tibetan Studies: A Collection of Essays in Honour of David P. Jackson on the Occasion of his 70th Birthday, Indian and Tibetan Studies 12	6. 最初と最後の頁 509-541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 52
2. 論文標題 声聞の離欲と菩薩の大悲 - Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注 (2) -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 95-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 加納和雄、李学竹、横山剛	4. 巻 25
2. 論文標題 梵文和訳『牟尼意趣莊嚴』 - 器世間解説前半部 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 加納和雄、李学竹、葉少勇、壬生泰紀、北山祐誓、安川真由、道元大成	4. 巻 25
2. 論文標題 如来秘密經の梵文佚文 Sutralamkarapariçaya 帰依品より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 69-1
2. 論文標題 Nayatrayapradipa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya 顕密の体系を概述する三点の梵文作品	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 129-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 80
2. 論文標題 宝性論の仏説観(2) arsaの語義と類型	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 53-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、ヨビタ・クラマー (Jowita KRAMER)、横山剛、田中裕成、セバスチャン・ネルディヒ (Sebastian NEHRDICH)、小南薫、中山慧輝	4. 巻 3
2. 論文標題 律儀獲得の範囲と動機 俱舍論安慧疏・業品第36偈ab句の梵文和訳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 対法雑誌	6. 最初と最後の頁 43-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 伊集院菜、加納和雄、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 7
2. 論文標題 梵文和訳『サマーヨーガ・タントラ』第5章1-20偈 物語りと仮面劇	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 89-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 望月海慧	4. 巻 95別巻
2. 論文標題 アティシャが伝えた金剛瑜伽女について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 197-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaie MOCHIZUKI	4. 巻 70-3
2. 論文標題 On the Two Hayagrivasadhanas of Dipamkarasrijnana	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 135-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akira SHIMADA	4. 巻 -
2. 論文標題 Trajectories of Buddhist Monasteries after the Gupta Era: An Archaeological Survey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (図書欄にも記載)	6. 最初と最後の頁 41-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Abhishek Singh AMAR	4. 巻 -
2. 論文標題 Buddhist Monasteries and Their Settlement Contexts in Early Medieval Magadha	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (図書欄にも記載)	6. 最初と最後の頁 131-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nicolas MORRISSEY	4. 巻 -
2. 論文標題 Apotropaic Power and Ritual Efficacy in the Buddhist Art of Medieval Bengal: Observations on the Terracotta Sculptures of Nandadirghi Vihara	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (図書欄にも記載)	6. 最初と最後の頁 161-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 久間泰賢	4. 巻 746
2. 論文標題 考古アカデミックレポート グプタ朝以降のインド仏教の僧院に関する総合的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 54-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Tarih-i Banakati	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Online Webpage, Perso-Indica. An Analytical Survey of Persian Works on Indian Learned Traditions	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Rajatarangini (Zayn al-'Abidin translation)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Online Webpage, Perso-Indica. An Analytical Survey of Persian Works on Indian Learned Traditions	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo KANO, Jowita KRAMER	4. 巻 -
2. 論文標題 The Fourth Chapter of the Tattvartha Abhidharmakosatika: On Forbidding Intoxicating Liquor	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies August 1 to 4. Beijing: China Tibetology Publishing House	6. 最初と最後の頁 107-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo KANO, Xuezh LI	4. 巻 -
2. 論文標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munimatalankara	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies August 1 to 4. Beijing: China Tibetology Publishing House	6. 最初と最後の頁 45-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 51
2. 論文標題 声聞による大乘の真実観批判 - Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注 (1) -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集	6. 最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 79
2. 論文標題 宝性論の仏説観 (1) 第5章18・19偈とその背景	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部紀要	6. 最初と最後の頁 81-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、葉少勇、李学竹、壬生泰紀、北山祐誓、安川真由、道元大成	4. 巻 24
2. 論文標題 郁伽長者所問經の梵文佚文 Sutralamkarapar icaya帰依品より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 293-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄 (阿毘達磨集論研究会メンバーとしての共著)	4. 巻 24
2. 論文標題 梵文和訳『阿毘達磨集論』(5)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 183-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 69-2
2. 論文標題 サツジャナとマハージャナ 11世紀カシュミールの弥勒論書関連文献群	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 861-855
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo KANO, Jowita KRAMER	4. 巻 36-1
2. 論文標題 The Fourth Chapter of the Tattvartha Abhidharmakosatika; on 4.35: On Attaining Restraint, Non-Restraint and Neither-Restraint-nor-Non-Restraint	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 China Tibetology	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、ヨビタ・クラマー (Jowita KRAMER)、横山剛、田中裕成、セバスチャン・ネルディヒ (Sebastian NEHRDICH)、小南薫、中山慧輝	4. 巻 2
2. 論文標題 律儀の獲得 俱舍論安慧疏・業品第35偈の梵文和訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 対法雑誌	6. 最初と最後の頁 63-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 246
2. 論文標題 梵文校訂『牟尼意趣莊嚴』第一章 (fol. 64r2-67v2) 『中観光明』佚文・行者の直観知と無自性論証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 5-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 59
2. 論文標題 普賢成就法1-54偈試訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教学会報	6. 最初と最後の頁 (27)-(57)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、伊集院菜、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 6
2. 論文標題 梵文和訳『サマーヨーガ・タントラ』第4章	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 33-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4. 巻 6
2. 論文標題 なぜ仏の姿の観想がさとりをもたらすのか?(2)Ratnaraksita著Padmini第13章傍論後半和訳註	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Junglan BANG、倉西憲一	4. 巻 43
2. 論文標題 A Study on Yogic-suicide (utkranti) of the Samvarodayatantra -based on Preliminary Edition and Translation of Padmini ch.19-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大正大学総合仏教研究所年報	6. 最初と最後の頁 259-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 倉西憲一	4. 巻 64
2. 論文標題 インド後期密教における数珠 『サンヴァローダヤタントラ』第12章および註釈書『パドミニー』の校訂テキストおよび訳註	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 豊山学報	6. 最初と最後の頁 (111)-(128)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaie MOCHIZUKI	4. 巻 69-3
2. 論文標題 Five Ritual Manuals of Death and Rebirth Attributed to Dipamkarasrijnana	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 146-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場紀寿	4. 巻 179
2. 論文標題 ブダゴースの正法存続論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 27-48 (横)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke FURUI, Arlo GRIFFITHS	4. 巻 11
2. 論文標題 A New Copperplate Inscription: Grant of the Village Kumudavillika during the Reign of Sasanka, Year 8	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series	6. 最初と最後の頁 99-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 12 (2)
2. 論文標題 In This Corner of the Entangled Cosmopolises: Political Legitimacies in the Multilingual Society of Sultanate and Early Mughal Kashmir	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 237-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Jami ' al-tawarih	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Perso-Indica. An Analytical Survey of Persian Works on Indian Learned Traditions	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 78
2. 論文標題 ゴク・ロデシェーラブ作『書簡・甘露の滴』の新出版本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 57-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 51
2. 論文標題 アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集Subhadra	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊集院菜、倉西憲一、加納和雄、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 42
2. 論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第2~3章	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大正大学総合佛教研究所年報	6. 最初と最後の頁 47-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo KANO, Peter-Daniel SZANTO	4. 巻 5
2. 論文標題 New pages from the Tibet Museum birch-bark manuscript (1): Fragments Related to Jnanapada	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4. 巻 5
2. 論文標題 なぜ仏の姿の観想がさとりをもたらすのか？(1) Ratnaraksita著Padmini 第13章傍論前半和訳註	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo KANO, Xuezhu LI	4. 巻 3
2. 論文標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munimatalankara	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sanskrit Macuscripts in China	6. 最初と最後の頁 45-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kenichi KURANISHI	4. 巻 28
2. 論文標題 An Unidentified Work attributed to *Aryadevapada contained in NGMPP B31/6: Preliminary Edition and Notes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教文化学会紀要	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryugen TANEMURA	4. 巻 22
2. 論文標題 The Kriyasamgrahapanjika of Kuladatta and its Parallels in the Saiva Pratisthatantras	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Saivism and the Tantric Traditions: Essays in Honour of Alexis G.J.S. Sanderson (Gonda Indological Studies)	6. 最初と最後の頁 507-538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004432802	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryugen TANEMURA	4. 巻 -
2. 論文標題 The Recipient of the Tantric Buddhist Funeral	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tantric Community in Context	6. 最初と最後の頁 315-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場紀寿	4. 巻 15
2. 論文標題 仏教における「正統と異端」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke FURUI	4. 巻 10
2. 論文標題 Sujanagar Stone Inscription of the Time of Bhojavarman, Year 7	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaie MOCHIZUKI	4. 巻 68-3
2. 論文標題 The Thirteen Manners of Mantra Attributed to Dipamkarasrijnana	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 142-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 86
2. 論文標題 Persian Historiography of Kashmir during the Gahangir Period I: The Intihab-i Tarih-i Kashmir	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 145-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉智史	4. 巻 88
2. 論文標題 まだ見ぬ等価を求めて ムハンマド・シャーハーバーディーの翻訳ストラテジー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 29-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉智史	4. 巻 826
2. 論文標題 14世紀イランに伝えられたインドの歴史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 56-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉智史	4. 巻 88
2. 論文標題 カシミール史料におけるミールザー・ハイダル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 20-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 67-2
2. 論文標題 世親作十地経論の梵文佚文	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 116-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 2
2. 論文標題 Nayatrayapradipa 新出梵本の予備的報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of World Buddhist Cultures (龍谷大学世界宗教研究センター)	6. 最初と最後の頁 125-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、松田和信	4. 巻 11
2. 論文標題 ラトナーカラシャーンティの『般若波羅蜜修習次第』梵文和訳	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 インド論理学研究	6. 最初と最後の頁 145-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 241
2. 論文標題 梵文校訂『牟尼意趣莊嚴』第一章 (fol. 61r5-64r2) 『中観光明』世俗と言説および唯心説批判箇所佚文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 (31)-(56)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊集院菜、加納和雄、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 41
2. 論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1章	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大正大学総合佛教研究所年報	6. 最初と最後の頁 (61)-(100)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4. 巻 4
2. 論文標題 Ratnaraksita著Padmini第13章傍論後半 Preliminary Edition および註	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 (1)-(42)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 苜米地等流	4. 巻 1
2. 論文標題 Abhayakaragupta作Amnayamanjari所引文献(3) 新出梵文資料第6～8章より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際仏教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 77-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke FURUI	4. 巻 2
2. 論文標題 Social Life: Issues of Varna-Jati System	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 History of Bangladesh: Early Bengal in Regional Perspectives (up to c. 1200 CE)	6. 最初と最後の頁 43-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 望月海慧	4. 巻 67-3
2. 論文標題 Five remaining Works on the esoteric Ritual of Dipamkarasrijnana	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 153-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 望月海慧	4. 巻 91別巻
2. 論文標題 アティシャの『マントラ義入』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 369-370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke FURUI	4. 巻 7
2. 論文標題 Buddhist Viharas in Early Medieval Bengal: Organizational Development and Historical Context	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Buddhism, Law & Society	6. 最初と最後の頁 99-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arlo GRIFFITHS	4. 巻 7
2. 論文標題 The Terms Kuti and Vihara in Old Javanese Epigraphy and the Modes of Buddhist Monasticism in Early Java	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Buddhism, Law & Society	6. 最初と最後の頁 143-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 17件）

1. 発表者名 加納和雄
2. 発表標題 Nayatrayapradipa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya 顕密の体系を概述する三点の梵文作品
3. 学会等名 日本印度学仏教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo KANO
2. 発表標題 Three Nayatraya Texts
3. 学会等名 International Symposium on Eurasian and Buddhist Philology in Memoriam of Professor Tschen Yin-Koh at Tsinghua University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 望月海慧
2. 発表標題 アティシャが伝えた金剛瑜伽女について
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 望月海慧
2. 発表標題 Dipamkarasri jnanaの説くHayagriva成就法
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akira SHIMADA
2. 発表標題 Trajectories of Buddhist Monasteries in the Gupta and Post-Gupta Periods: An Archaeological Overview
3. 学会等名 Revisiting Buddhist Monasteries in the Gupta and Post-Gupta Periods (The 1st RINDAS International Symposium 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akira SHIMADA
2. 発表標題 Sankaran: Late Buddhist Monastic Architecture in Northern Andhra
3. 学会等名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Abhishek Singh AMAR
2. 発表標題 Monasteries and Settlement Shrines: Mapping the Extent of Buddhism in Early Medieval Magadha
3. 学会等名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nicolas MORRISSEY
2. 発表標題 Post Gupta-Vakataka Buddhist Art in the Deccan: Reflections on Patronage and Ritual in the Early Medieval Milieu
3. 学会等名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 The Buddha's Prediction on the Future Maitreya in the Zubdat al-Tawarikh of Abu al-Qasim Qashani (together with the counterparts in the Jami' al-Tawarikh of Rashid al-Din and the Maitreyavyakarana)
3. 学会等名 Reading two Persian episodes on the Buddha composed in Ilkhanid Iran
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 A Dialogue between the Buddha and a Celestial Being in the Zubdat al-Tawarikh of Abu al-Qasim Qashani (together with the counterparts in the Jami' al-Tawarikh of Rashid al-Din and the Devatasutra)
3. 学会等名 Reading two Persian episodes on the Buddha composed in Ilkhanid Iran
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Towards a Comparative Study on Mughal Persian Translations of the Yogavasistha
3. 学会等名 International Centenary Conference on Indo-Persian Literature and Culture and Heritage of Professor S. A. H. Abidi (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 パンジャーブ北部土着集団の千年
3. 学会等名 共同利用・共同研究課題「インド世界」の形成 フロンティア地域を視座として」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 16世紀カシミールにおけるリシ伝承の展開
3. 学会等名 内陸アジア史学会2020年度大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Various Ways to Liberation: a Comparative Study in the Mughal Persian Translations of the Yogavasistha
3. 学会等名 AAS-in-ASIA 2020 Asia at the Crossroads: Solidarity through Scholarship
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Kalhana's 'Victory' over Rashid al-Din: Contesting Pre-Islamic History of Kashmir during the Jahangir Period
3. 学会等名 共同基礎研究「南アジアにおける文化的接触のダイナミズム」2020年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加納和雄
2. 発表標題 サツジャナとマハージャナ 11世紀カシュミールの弥勒論書関連文献群
3. 学会等名 日本印度学仏教学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 南アジアにおけるサンスクリット古典の翻訳
3. 学会等名 ワークショップ「21世紀の人文知とは 世界の古典学から考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Part V Early Modernity and Civilizational Apogee (ca. 1453-1683)
3. 学会等名 Book Launch Review Roundtable of Wiley Blackwell History of Islam (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加納和雄
2. 発表標題 密教の小作品群を収める一梵本：チベット伝存の新出写本（アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集）
3. 学会等名 日本密教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo KANO
2. 発表標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munitatalamkara
3. 学会等名 A Workshop on Late Madhyamika Texts (Centre for Tibetan Studies of Sichuan University 四川大学) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo KANO
2. 発表標題 Closing verses of the Munimatalankara
3. 学会等名 A Workshop on Late Madhyamika Texts (Centre for Tibetan Studies of Sichuan University 四川大学) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo KANO
2. 発表標題 Nayatrayapradipa
3. 学会等名 The Manuscripta Buddhica Workshop & The Vihara Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pascale HUGON, Kazuo KANO
2. 発表標題 The gateway to Tibetan scholasticism: A new collaborative project
3. 学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian-Japanese Cooperation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo KANO
2. 発表標題 Proto-Sarada Materials in Tibet: Move of manuscripts or scribes?
3. 学会等名 Sarada: Goddess, Learning, Script: On the Sanskrit manuscript culture of Kashmir (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Taiken KYUMA
2. 発表標題 Reconsidering the decline of Buddhism in India: A progress report on the Vihara project
3. 学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian-Japanese Cooperation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉西憲一
2. 発表標題 アバヤーカラグプタ学統について 密教教理と実践の統合化をめぐる
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru TOMABECHI
2. 発表標題 Editing Buddhist Tantric Texts in the STTAR Project
3. 学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian-Japanese Cooperation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryosuke FURUI
2. 発表標題 Buddhist Viharas in Early Medieval Bengal: Organizational Development and its Historical Context
3. 学会等名 中世南・東南アジアにおける仏教僧院の支援および社会的文脈についての碑文史料 (Epigraphic Evidence on Patronage and Social Context of Buddhist Monasteries in Medieval South and Southeast Asia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 望月海慧
2. 発表標題 Dipamkarasrijnana に帰せられる13のマントラの流儀について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Additional annotations on Indic/Kashmiri non-Muslim cultures, traditions, and knowledge in the Persian translation of the Rajataranginis
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 近代以前の「ヒンドゥー」をめぐる自己・他者認識
3. 学会等名 日本南アジア学会30周年記念シンポジウム「ヒンドゥイズム再考：時代を超えた変動とその余白」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Revisiting Sanskrit Epic-Puranic Elements in Rashid al-Din's History of India
3. 学会等名 The third Perso-Indica workshop
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 デリー・サルタナト期パンジャーブ北部の土着集団について
3. 学会等名 平成30年度東洋史研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Between Story and History: Various attitudes toward Kashmir 's pre-Islamic past by historians of the Mughal period
3. 学会等名 International Conference on Persianate Literature in India and Anatolia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 The Ain-i Akbari and Western Indology: With Special Reference to the Category of the Six Schools of Philosophy
3. 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference The Classification of Indic Knowledge at the Mughal Court: the The Ain-i Akbari（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taiken KYUMA
2. 発表標題 Rethinking the Decline of Indian Buddhism: Perspectives on Buddhist Monasteries from the Gupta Period Onward
3. 学会等名 Challenging Stereotypes in Early Indian Buddhism（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉西憲一
2. 発表標題 聖者流の新出写本 Aryadevaに帰されるテキスト
3. 学会等名 仏教文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮崎泉
2. 発表標題 実践から見た後期インド大乘仏教 『修習次第』と『菩提道灯』
3. 学会等名 東方学会秋期学術大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 望月海慧
2. 発表標題 Dipamkarasrijnana による「秘密部」所収の儀軌文献
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第69回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 望月海慧
2. 発表標題 アティシャの『マントラ義入』について
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Ronald DAVIDSON, Akira SHIMADA (ed.), Pia BRANCACCIO, Max DEEG, Abhishek Singh AMAR (ed.), Nicolas MORRISSEY (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Ryukoku University, Kyoto, Japan	5. 総ページ数 189
3. 書名 On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia (RINDAS Working Paper Series 34)	

1. 著者名 加納和雄 (担当: 宗教篇 序文、第9章 チベット仏教思想史の再構築に向けて 新出資料カダム全集)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 チベットの歴史と社会 上 歴史篇・宗教篇	

1. 著者名 久間泰賢 (担当: 197-198、「ニヤーヤ・ピンドゥ」の項目)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 516
3. 書名 仏典解題事典	

1. 著者名 加納和雄 (担当: 173-182、183-202、203-213、ただし203-213は葉少勇・李学竹との共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 328
3. 書名 『大乘莊嚴經論』第11章の和訳と注解 (能仁正顕編)	

1. 著者名 Satoshi OGURA et. al (担当: 59-72)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 DK Publishers Distributors Pvt. Ltd.	5. 総ページ数 89
3. 書名 Sanskrit in relation with regional languages and literatures: select papers from the Panel on Sanskrit in Relation with Regional Languages and Literatures at the 16th World Sanskrit Conference (28 June - 2 July 2015) Bangkok, Thailand	

1. 著者名 Satoshi OGURA et. al (担当: 189-202)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kenan Rifai Center for Sufi Studies	5. 総ページ数 375
3. 書名 Islamic and Sufi Studies in Academia: Rethinking Methodologies: Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 3	

1. 著者名 馬場紀寿	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 初期仏教: ブッダの思想をたどる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Perso-Indica http://www.perso-indica.net/work/jami_al-tawarih こんな研究をして世界を変えよう～キミはどんな学問や研究に出会えるか～ https://www.sekaiwokaeyo.com/theme/12395/ Academia.edu https://tais.academia.edu/KenichiKuranishi 科研ニューズレター（日本語版・英語版） https://mie-u.repo.nii.ac.jp/ RINDAS Series of Working Papers 34 https://rindas.ryukoku.ac.jp/publication Buddhism, Law and Society https://hal.science/hal-04135594#</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加納 和雄 (KANO Kazuo) (00509523)	駒澤大学・仏教学部・准教授 (32617)	
研究分担者	宮崎 泉 (MIYAZAKI Izumi) (40314166)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	小倉 智史 (OGURA Satoshi) (40768438)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (12603)	
研究分担者	苔米地 等流 (TOMABECHI Toru) (60601680)	一般財団法人人情報学研究所・仏典写本研究部門・主席研究員 (82683)	
研究分担者	望月 海慧 (MOCHIZUKI Kaie) (70319094)	身延山大学・仏教学部・教授 (33502)	
研究分担者	倉西 憲一 (KURANISHI Kenichi) (90573709)	大正大学・仏教学部・専任講師 (32635)	
研究分担者	Forte Erika (FORTE Erika) (50899979)	京都大学・人文科学研究所・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計18件

国際研究集会 国際workshop "Reading Two Persian Episodes on the Buddha Composed in Ilkhanid Iran (Part 2)"	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

国際研究集会 国際symposium "Revisiting Buddhist Monasteries in the Gupta and Post-Gupta Periods (The 1st RINDAS International Symposium 2021)"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際workshop "Buddhism and Saivism in Premodern Trans-Himalayan Regions"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際workshop "On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 連続講演会 "Different Perspectives on Monasteries in India"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際workshop "Different Approaches to Indian Buddhist Monasteries from the Gupta Period Onward"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 連続講演会 "Studies on Buddhist Monastic Cultures: German-Japanese Collaboration (Part 2)"	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際workshop "Monasteries and Doxography in Indian Buddhism"	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際workshop 「中世南・東南アジアにおける仏教僧院の支援および社会的文脈についての碑文史料」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際workshop "The Manuscripta Buddhica Workshop & The Vihara Workshop"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際workshop 「イスラーム化する西アジアにおける仏教徒の遺構と記憶」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際workshop 「前近代東南アジアにおける仏教徒と他宗教教団～特に僧院の観点から～」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際workshop "Reading Two Persian Episodes on the Buddha Composed in Ilkhanid Iran"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 連続講演会 "Studies on Buddhist Monastic Cultures: German-Japanese Collaboration"	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 データベース作成班第1回研究集会（海外研究者を複数名招へい）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 キックオフ研究会・キックオフシンポジウム	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第2回国内研究会（海外研究者を複数名招へい）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際ワークショップ「中世インドにおける寺院・僧院と政治権力」	開催年 2019年～2019年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------